

## 10 自然現象

### 10—4 地理・地形

#### 10—4—1 コタンの構造とその近隣の状況

##### 屈斜路コタン

20年前、アイヌチセはなかった。日川善次郎氏は、現在の屈斜路アイヌ民俗郷土博物館の近くの湖畔に古いヌサが倒れていたのので、エカシ・ノミ *ekasi nomi*して同じ場所に新しいヌサをこしらえて、イチャラバ *icarpa*（先祖供養）をした。そのヌサで春と秋に先祖供養をした。

[屈斜路 日川キヨ氏]

##### 徹別（テシベツ）コタン

日川さんの家のあった上徹別は、阿寒川の右岸で、秋辺姓と徹辺姓の家が7～8軒あった。テシベツ川の山に向って左側（右岸）に上から下へと並んでいた。家は2、30間ほど離れていた。部落の真ん中にオンネチセ *onne cise* と呼ばれる茅葺きの家（ムィチセ *muy cise*）があった。テシベ・シロー、アキという老夫婦が住んでおり、熊も「あずかっていた」。1年に1回の熊祭りがあるとき、その家で行った。テシベさんはクマを狩る人だった。テシベ・シローはテシベツの部落のコタンコロクル *kotan kor kur* だった。私の家からオンネチセまでは、1里の半分もなかった。

[屈斜路 日川キヨ氏]

コタンの家はみんな親戚関係で、今年、101歳になる徹辺フヨさんは、私のおばに当たる。徹辺は旧姓のままなので、同じ徹別コタンの徹辺家の出だ。

当時の徹別は、上徹別、中徹別、下徹別に別れていたが、全体で徹別コタンだ。上、中、下で別々なコタンということはない。

自分の家は、上徹別にあった。中徹別、下徹別の人達と行き来があったが、舟がないので歩いて行き来していた。上徹別でクマを捕ると、中徹別や下徹別からエカシやフチが来た。

[屈斜路 日川キヨ氏]

##### コタンのカムイノミ

毎年1回、春か秋にオンネチセ *onne cise* に村の人が全員集まり神様に喜んでもらうためにカムイノミをする。（釧路7—12—4参照）

[屈斜路 日川キヨ氏]